

福山大学 工学部 2020年度 自己点検・評価書

基準1. 理念・目的

領域： 使命・目的、教育目的

2020年度

工学部

中長期計画	工学部の使命・目的は、工学の定義に基づき、「何故作るか」を熟慮できる教養と倫理観、「何が起こるか」が予測できる設計力、「どの様に対応するか」が推察できる理論的考察力、そして、やり遂げる力等、大学で教えるべき日本のものづくりを標榜し、我々にとって有意なものや環境をできるだけ無駄なく、安全に実現し、修復、再利用する学問の構築を目指す。その学部理念の下に、各学科は専門性を考慮した使命・目的を掲げて学生に学修の機会を与える。

2020年度

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的及び教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	学則に工学部の目的は明記され、かつ、これに基づく行動目標を示す3ポリシーで明確にしている。
年度目標	3ポリシーを点検し、齟齬が無い場合は現状を維持する。
年度報告	自己点検を通して、理念・目的を確認した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度第1回教授会議事録②工学部自己点検評価委員会議事録
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	学部目的に教養の必要性を謳い、APにおいては工学の定義を明示する等、他の大学にない特徴と判断している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①第1回工学部教授会議事録②工学部自己点検評価委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	平成28年度に外部評価を行い、社会の要請を傾聴し、それに基づき常に改善策を検討している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持。学科長等連絡会議、工学部教授会において、他大学工学部の状況や入試状況について報告を行い、改善すべき点がないか?などについて議論した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度第1回教授会議事録、②工学部自己点検評価委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

工学部

中点検項目	1-2. 使命・目的及び教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的及び教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	年度計画策定、自己点検の実施に際し、合議し、理解と支持を得ている。
年度目標	現状を維持
年度報告	教授会で年度計画案を示し、理解と支持を得ている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度第1回工学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し、周知していますか。
現状説明	福山大学工学部の使命は、学外に対してはHP、オープンキャンパス、出張講義で周知し、学内においては、新入生に訓示している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を継続した。
達成度	A

改善課題	①大学HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/eng/eng-policy/ 、②オープンキャンパスプログラム、③2020年度学生便覧
根拠資料	①福山大学HP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画に反映していますか。
現状説明	使命に基づいた施設整備計画等、中長期計画に反映させている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2021年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 3つのポリシーに反映していますか。
現状説明	使命に基づき、3ポリシーは制定されている。
年度目標	現状を維持するが、もし、使命に変更がある場合は、直ちに3ポリシーに反映させる。
年度報告	現状を維持
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学HP、②2020年度学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	教養教育実施機関と各学科の整合性が図られ、カリキュラムマップに反映されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

工学部

基準2. 学生**領域： 学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応**

2020年度

工学部

中長期計画	学生の受入れ状況として、4学科の内、建築学科は安定して定員充足し、情報工学科も平成30年度入試から、3年連続して、入学定員を充足する見込みである。スマートシステム学科は平成31年度は20%台であったが、令和2年度より定員が30名となり、入学予定者も増加して、入学者が70%を超えるようある。機械システム工学科も平成30年度入試から2年連続で60%を下回っていたが、令和2年度は入学者が80%を超える予定である。学科長等連絡会議や工学部教授会で何度も定員管理改善について協議を重ね、細かな点についても改善を図っているが、令和2年度入試の工学部の志願者増は、全国的な理系の志願者増に拵ることも大きいと思われる。現在のこの機会を逃さず、今のうちに工学部の力(教育力と研究力)をつけておく必要がある。教育力を高めるためには、資格試験合格者数やマスマディアへの露出などによる教育力の視覚化を検討する。研究力を高めるためには、ICT利用などによる業務の効率化を推進する。学生生活に関しては、きめ細かく学生の行動を把握し、意見に耳を傾ける姿勢を定着させる。また、工学部のみらい工学プロジェクトのSA採用が2年目に入り、その効果の検証と改善を行う予定である。
	学修環境について、建築学科が授業科目によっては1教室に学生が入りきらない問題が発生していた。情報工学科についてもそのような問題が発生する可能性があった。これについては、共同利用センターの計画による令和2年度のパソコン室更新とBYOD室の設置により、改善される予定である。今後、これらの改善点に関する検証が必要である。

2020年度

工学部

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	策定し、毎年見直しを行っている。また、学内では年度初めのオリエンテーション、学外へはHPやオープンキャンパス、出張講義で明示している。
年度目標	現状を維持

年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度題1回工学部教授会議事録、②大学HP、③工学部公式HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/eng/eng-policy/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	学科長等連絡会議で議論し、各学科で新入生のアンケートを行っている。
年度目標	アドミッションポリシーに対するチェック、アクションを各学科で実践するように周知する。
年度報告	学科長等連絡会議で議論した。新型コロナウィルス禍により、入学者アンケート実施を徹底することができなかった。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①各学科2020年度新入生アンケート結果
次年度の課題と改善の方策	コロナ禍でもアンケート実施および、その解析を行う。
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	各学科で実施すると共に、学部全体に於いても年度初めの学部教授会で行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状維持に加えて、過去4年間の各学科の学生受け入れ状況のグラフを作成し、学科長に示した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度第1回工学部教授会議事録、②工学部自己点検評価委員会議事録。
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。できない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	建築学科、情報工学科では充足されたが、残り2学科が未達である。学科長等連絡会議や工学部教授会でその原因に関する議論を重ね、建物改修要求や発信強化などの対策を行っている。
年度目標	未達学科の活動を支援する手段として、ICTを活用した業務負荷低減を推進し、そこで得られた時間も使って、改善を強化する。アンケート、ICTを活用したIRの実施により、原因の究明、対策の実施を行う。
年度報告	建物改修を実現していただいた。残念ながら、新型コロナウィルス禍の影響もあり、学生が建物改修の恩恵に浴していない。しかしながら、新型コロナウィルス禍の影響もあり、学部教授会の実施の多くをオンラインに移行することができた。このことにより、多くの事務作業を簡略化すると同時に、教授会メンバーが会議に参加しやすくなった。
達成度	B
改善課題	全ての学科で定員数を下回った。
根拠資料	①教授会資料、SD資料、入試資料
次年度の課題と改善の方策	スマートシステム学科については、2つのコースによる教育が本格化する予定である。機械システム工学科については、改組が検討されている。

2020年度	工学部
中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	Office365の活用を推進して教員と職員間の情報共有を行うと同時に、Karinの利用も推進する。学科長等連絡会議、工学部教授会で教員だけでなく事務職員も参加することにより、協働を行っている。公表については、自己点検計画・報告で行っている。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学部教授会資料②工学部自己点検評価委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。

現状説明	スマートシステム学科、建築学科、情報工学科で活用しており、2019年度からはみらい工学プロジェクトでSAを活用している。
年度目標	建築学科、情報工学科では、現状を維持し、スマートシステム学科では導入計画（予算計上）を実施する。工学部共通のみらい工学プロジェクトにおいてSAを採用する予定である。
年度報告	新型コロナウィルス禍により、TA/SAを活用する機会が少なくなってしまった。
達成度	B
改善課題	遠隔授業実施の場合でもTA/SAを活用できるようにする。
根拠資料	①TA/SA雇用に関する報告書等
次年度の課題と改善の方策	遠隔授業の場合でもTA/SAを活用できるよう、要求および事務作業をおこなう。

工学部

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	キャリア科目の必修化と共に、BINGO OPEN INTERNSHIP 等、インターンシップの活用が活発化している。
年度目標	前年度に引き続き、積極的な参加を呼び掛け、インターンシップ利用者の増加を図る。
年度報告	昨年度78名だったものがコロナ渦で大幅に減少し、14名になった。
達成度	B
改善課題	コロナ渦で減少してしまった。
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	すでにオンラインのインターンシップも行われている。これらの新しい技術を使ったキャリア形成支援を強化したい。
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。
現状説明	学科主導で収集し、検証すると共に、その結果を学部で把握している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度卒業生進路届②就職委員会報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	全学的な組織である資格取得支援センター、キャリア形成支援委員会、自分未来創造室を中心として整備されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学HP、②2020年学生便覧、③資格取得支援センター議事録、④大教セ運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取組んでいますか。
現状説明	各学科の就職委員を中心に、就職委員会、就職課と連携し内定率の向上に取り組み、高い就職率を維持している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①各学科教室会議議事録、②全学教授会資料（就職内定状況）
次年度の課題と改善の方策	

工学部

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	学部主導の間接的な経済支援として、TA、SA制度を充実させた。
年度目標	現状を維持
年度報告	継続したがコロナ渦で有効に活用できなかった。
達成度	B
改善課題	

根拠資料	①2020年度予算申請書
次年度の課題と改善の方策	コロナ渦でもTA/SAを活用できるようにする。
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取組んでいますか。
現状説明	学部から2名のハラスメント対応委員を選出すると共に、相談員として常駐し発生防止に取り組んでいる。ハラスメントが発生した場合、工学部SDを開催し、同様のことが発生しないように教員に周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度委員名簿②第9回工学部教授会議事録の評議会報告（ハラスメント報告）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取組みを行っていますか。
現状説明	学科横断型授業から課外活動が発生する仕組みを作り、かつ、その活動を公開することで学生の参加を促している。
年度目標	SAを活用することにより、学生の学年間の知識・技能の継承を図り、学科の枠だけでなく学年を超えた学生間の協力をを行いやすくする予定である。
年度報告	コロナ渦でみらい工学プロジェクトの授業を実施することができなかった。ひとまち暮らしプロジェクトの活動（内田先生、佐藤先生）を行った。マスメディアに取り上げられたり、福山市実証実験丸ごとサポート事業に採択されたりした。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ、②中国新聞 2020/10/4「福山の備後表継承会、初の実用化 畏職人と協力、品質保つ工程目指す」、③福山市ホームページ https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/soshiki/sentan/218826.html
次年度の課題と改善の方策	対面授業が行われる場合は、SAを活用したみらい工学プロジェクトなどを実施する。対面授業が行われなかつた場合も、遠隔授業でのSA活用の道をさぐる。

2020年度 工学部

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	学部の施設設備の整備と運用を改善するWGを立ち上げ、予算申請に向けて協議している。
年度目標	授業科目によっては、学生が教室に入りきらない問題の解決方法の検討を行い、ICT利用環境の整備とともに、予算要求などで反映させる。
年度報告	現状を維持
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2021年度予算要求書②令和2年度第10回工学部教授会資料③学長宛要望書(令和2年12月24日、Cynap要望書)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	ICT教室、実習・実験施設は積極的に活用しているが、図書館（ラーニングコモンズ）の利用度は低い。知の基盤としての図書館の機能は大学にとって重要なものであるが、すでに、知の集積場所は紙媒体から電子媒体に移行しつつある。物理的な図書館の機能の強化よりも、電子的な図書館の機能強化に注力すべきではないか？図書館の役割は他に、現在も実施されている文化活動のウェイトが大きくなるのではないか？工学部はそちらの方には積極的に参加している。
年度目標	従来通り、ICT教室、実習・実験施設の利用を行うと共に、工学部の図書館文化活動への参加を積極的に行う。
年度報告	コロナ渦で授業数が減ってしまったが、ICT教室、実習・実験施設の有効活用を行った。図書館については、図書館委員会において利用者増のためのさまざまな施策を行っているが、コロナ渦もあって全学的に利用社が少ないがそのなかでも工学部の利用率が低い。2019年度の工学部ののべ来館者数 4,691人に対して2020年度は1,331人であった。
達成度	B
改善課題	図書館行事の工学学生への周知。図書館機能のオンラインへの移行。
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	知の基盤としての図書館の機能は大学にとって重要なものであるが、すでに、知の集積場所は紙媒体から電子媒体に移行しつつある。物理的な図書館の機能の強化よりも、電子的な図書館の機能強化に注力すべきではないか？
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティースペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取組んでいますか。

現状説明	施設設備整備のWGを中心に施設調査を実施し、不備や希望がある部分は改善の申請を行っている。
年度目標	30号館のバリアフリー化を検討する。工学部各所のエアコンの清掃の予算確保を検討する。
年度報告	2020年度はバリアフリー化を実現できなかった。工学部各所のエアコンの清掃を実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2021年度予算要求書②学科長等連絡会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	授業評価アンケートの結果等の学生からの意見や、教員からの要望に対応して管理を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	コロナ渦で座席数が減ってしまった。大学教育センターからの指示にしたがい、着席箇所の指定などに協力した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学教育センター運営委員会資料, ②"Preventing COVID-19 Infection in a University Using Office 365", https://dl.acm.org/doi/10.1145/3419944.3441219
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	各学科を主体として、常に安全に気を配り、不備がある場合は直ちに改善している。しかしながら、点検記録は無い。
年度目標	定期的な点検の実施と記録保持を検討すると共に、学部レベルでの総点検を実施する。
年度報告	現状を維持、座席指定表作成の自動化に協力した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①第7回工学部教授会資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	全学的な管理ルールは整いつつあるが、学部内での管理システムは検証していない。
年度目標	工学部の安全管理システムを確立し、マニュアルを作成する。
年度報告	昨年度、マニュアルについては安全のしおりを全学で作成しており、その中に工学部に関する内容を反映している。その現状を維持した。しかしながら、2021年3月に、21号館および8号館の撤去作業における残品整理の最中、リストに掲載していない毒物が見つかった。見つかった毒物の廃棄処理の計画を立てるとともに、再度、長い間使っていない部屋や建物の物品を確認するよう、学科長に指示を行った。また、今後、このようなことが生じないよう、根本的な対処方法を検討すべきである。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①昨年度のSD報告書
次年度の課題と改善の方策	今後、物品リストにすべての毒物・劇物が掲載されるよう、根本的な対処方法を検討すべきである。
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	全学的な安全の手引きは整い、全学的な防災訓練を実施しているが、学部主導では行っていない。
年度目標	学部主導の防災訓練を計画・実施する。各学科で装置・設備の扱い方などの防災訓練は実施されているが、エビデンスが残っていない。そのエビデンスを残して、工学部で集約したい。
年度報告	全学のスケジュールに従って、防災訓練が行われた。学部主導で行うことはできなかつた。しかしながらコロナ渦対策として、C02センサを作成・設置し、実際に授業で利用し、C02センサの警告により換気が行われたケースがあった。
達成度	A
改善課題	学部主導の防災訓練の実施。各学科で装置・設備の扱い方などの防災訓練は実施されているが、エビデンスが残っていない。そのエビデンスを残して、工学部で集約したい。
根拠資料	①学長室ブログ https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/44389/
次年度の課題と改善の方策	各学科で実施されている訓練のエビデンスの集約を行う必要があつたが、コロナ渦で手がまわらなかつた。

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	①学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	授業評価アンケート、学科内の学生面談、大学教育センター主幹の共通教育アンケート、卒業生アンケート等で学生の意見・要望を把握する努力をしており、それらがある場合は反映させることを心がけている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①授業評価アンケート結果、②卒業生アンケート結果・在学生アンケート結果、③2021年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	②心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	心身に関することは保健管理センターの集計記録に頼っているが、経済的支援に関するサポートはできていない。保健管理センターの健康相談の工学部利用率が低い。
年度目標	保健管理センター活動内容の展開に協力し、保健管理センターの活動に学生の関心が向くようにする。
年度報告	学生の心身に関することで本年度は保健管理センターを多く利用した。また、学科と協力する体制を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①第12回評議会議事録（保健管理センター利用記録）②工学部自己点検評価委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	授業評価アンケート、卒業生アンケートが情報源となっており、環境整備の参考として用いている。
年度目標	学部としての分析を実施し、FDを通じて情報共有を図る。
年度報告	現状を維持した
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学部自己点検評価委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

工学部

基準3. 教育課程**領域：卒業認定、教育課程、学修成果**

2020年度

工学部

中長期計画	学部が掲げている学位授与(卒業認定)方針、教育課程の編成・実施方針、妥当性を毎年検証するために、学部の学修成果の判定方法の精度を向上させ、学修成果が可視化できるようにする。
2020年度	
中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	①教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	ホームページ、学生案内、オープンキャンパス、出張講義、学生便覧、オリエンテーションで周知の努力をしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教務委員会資料・議事録、②工学部教授会議事録、③シラバス、④学生便覧2020、⑤大学HP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	②ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ループリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。

現状説明	各学科で策定した結果を学部教務委員会で調整し、工学部教授会で承認している。学生便覧の形で学内に周知し、学外には全学の情報公開のページ http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/disclosure/ などを通じて周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教務委員会資料・戦争跡、②工学部教務会議事録、③ノハヘ、④学生便覧2020、⑤HP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	基準を大学HPで公開している。この基準は、各学科の教室会議、工学部教授会にて検証をおこなっており、厳正に適用している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①シラバス、②教務委員会シラバスチェック、③第13回工学部教授会議事録、④第14回工学部教授会議事録、⑤第15回工学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

工学部

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシーを策定し、学内には学生便覧、学外へはHP、広報では大学案内に明記し周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧、②大学ホームページ、③大学案内、④工学部公式HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/eng/eng-policy/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	ディプロマ・ポリシーを経てカリキュラム・ポリシーを策定しているため一貫性を有す
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学HP、②2020学生便覧、③工学部公式HP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシーを通じて、工学部としての共通教育と専門教育の連携を謳い、実現している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシーにも専門教育との連動を明示し、実施している。全学の教養講座や教養教育科目を通じて、十分に実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①2020年度学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	みらい工学PJ、社会安全工学教育の学科連携のカリキュラムを設定し、効果を検証しつつ継続している。
年度目標	現状を維持
年度報告	みらい工学PJはコロナ渦で実施できなかったが、コロナ渦の対策として、全学的に工夫が行われ、効果的に実施された。全学SDで、工学部の実施例が2件報告された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020.09.17【大学教育センター】「遠隔教育」についてシンポジウム開催！
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	ディプロマ・ポリシーをベースにして、卒業研究のルーブリック評価をする等、整合性を考慮する努力を続けている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持およびアセスメント・ポリシーによる評価を実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学教育センター運営委員会資料・議事録、②評議会資料、③各学科教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

工学部

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	①全学及び各学科等のアセスメント・ポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	アセスメント表によるレーダーチャート評価を利用した評価を各学科において行っている。
年度目標	各学科のレーダーチャート評価を学部内で共有し、教育と評価そのものの改善を図る。
年度報告	レーダーチャート評価で、共通教育部分の評価が学科の評価につながらない問題が明らかになり、様々な場でその問題の提起を行っている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学部教授会資料・議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックは、どのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	基本的には各学科主導で実施しているが、学部として総括が必要な場合は学部教授会で改善を協議している。学科長等連絡会議や工学部教授会で、西日本地域の工学部長会議で得た改善例や情報を紹介している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

工学部

基準4.	教員・職員
領域:	教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援

工学部

中長期計画	全学的な教学IRのデータを教学マネジメントに活かし、教員配置や研究支援を進めるマネジメント体制を確立し、社会のニーズや国家の方針をキャッチアップし続けるためのFD研修を定期的に開催し、工学部を専門職大学とは一線を画した、企画力やアントレプレナー養成力を有する備後圏域の産業界に於いて、必要不可欠な教育研究機関にす
-------	--

工学部

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
-------	--------------------------

点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネージメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	規則による大学の制度が確立しており、それに基づいた、学長、学部長のガバナンス、リーダーシップは発揮されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学部教授会議事録、②全学教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	①役割の分散化に関しては、教務委員、学生委員、就職委員などを設置して対応を図っている。 ②①の担当者はそれが委員としての職務を果たしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教授会議事録、②学科長等連絡会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。
現状説明	職員の配置と役割の明確化は、大学の委員会名簿に基づいて行っているが、互助の精神に頼っている部分もある。Office365、Karin のデータベースへのデータ集積を行うなど、教学マネージメントの機能性を高める努力を行っている。
年度目標	継続する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①委員会名簿、②Office365の工学部のドキュメント、③Karinの工学部のドキュメント
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

工学部

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	教育目的、教育課程に則した教員配置をしているが、性別、年齢等のダイバーシティー化が遅れている。また、建築学科では設置基準は満足しているが、教員1人あたりの学生数が27.4人と非常に多くなっている。昨年度は、年齢構成の若年化、女性教員の登用の可能な人事を要望した。若年化については一部改善することができた(情報工学科における若手教員の採用)が、他の部分が不十分であり、今後大きな問題になることが予測される。
年度目標	年齢構成の若年化、女性教員の登用の可能な人事の要望を継続する。また、建築学科の人事トライアルにより、ST比改善と若年化を行いたい。
年度報告	継続した。建築学科の教員を採用することができた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学部人事教授会議事録、②2020年度自己点検書式（計画）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	教員数は確保している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①第10回評議会資料第1号
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取り組みを行っていますか。
現状説明	大学主催に加えて、学部、学科主催のSD・FDを年度間複数回開催している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学部オンライン卒業研究SD(2020 6/3)開催報告書、②機械工学科SD(2020 4/13, 5/1)、③大学教育センターSD (遠隔教育シンポジウム) (2020 9/17)
次年度の課題と改善の方策	

工学部

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development; 教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	学部の教学組織が関与する職員（技術職員）は、教員と共にSD・FD研修を受けている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学部オンライン卒業研究SD(2020 6/3)開催報告書、②機械工学科SD(2020 4/13, 5/1)、③大学教育センターSD (遠隔教育シンポジウム) (2020 9/17)
次年度の課題と改善の方策	

② 大学運営の効率改善のためにICTの活用を推進していますか。

点検項目	② 大学運営の効率改善のためにICTの活用を推進していますか。
現状説明	Office365の活用を推進している。
年度目標	Office365の活用を推進すると同時に、Karinの利用も推進する。
年度報告	学部教授会等ではOffice365のシェアポイントで情報共有を行うとともに、議事録等の重要な情報はKarinへ保管するなどの利用を推進した。また、活用成果を国際会議で発表した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①Office365 のSharePoint>工学部>ドキュメント、②S. Katagiri, et. Al, "Preventing COVID-19 Infection in a University Using Office 365", SIGUCCS '21: ACM SIGUCCS Annual Conference March 2021 Pages 60-65https://doi.org/10.1145/3419944.3441219
次年度の課題と改善の方策	

工学部

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	学部として、施設設備の管理には留意しているが、研究時間の確保の管理には至っていない
年度目標	Office 3 6 5 を用いて効率化できる事務仕事の抽出作業を行う。
年度報告	コロナ渦で必然的にそうなったのではあるが、工学部教授会の多くをTeamsで開催した。このことにより、多大な手間が減少すると同時に、参加しやすくなった。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①工学部教授会議事録②Office365 のSharePoint>工学部>ドキュメント
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	研究倫理に関する規則は整備され点検されている。また、研究倫理の研修会も厳密に実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①令和2年度第3回研究活動不正防止対策推進会議資料
次年度の課題と改善の方策	

点検項目		③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明		研究予算に関しては学部内合議に基づき、また、個人研究費は学部で承認された個人業績に基づき分配し、事務員が適正に管理・運用している。
年度目標		現状を維持
年度報告		現状を維持した。
達成度	A	
改善課題		
根拠資料	①第3回工学部教授会議事録、②工学部研究倫理コンプライアンス研修実施報告書	
次年度の課題と改善の方策		
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか。	
現状説明	公的研究費に関する、全学で整備されているガイドラインに従い、コンプライアンス教育を厳格に実施している。	
年度目標		現状を維持
年度報告		現状を維持
達成度	A	
改善課題		
根拠資料	①令和2年度第3回研究活動不正防止対策推進会議資料	
次年度の課題と改善の方策		

2020年度 工学部

基準6. 内部質保証

領域：組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル

2020年度 工学部

中長期計画	工学部自己点検評価委員会主導のもとで、工学部教授会の議を経て自己点検及び、年度計画の策定を毎年実施する。また、概ね4年に一度、自己点検評価結果に基づき、外部評価を実施して教育、研究等組織としての質が保証し続ける。
-------	--

2020年度 工学部

中点検項目 6-1. 内部質保証の組織体制		
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。	
現状説明	工学部自己点検評価委員会を組織し、学部教授会の議を経て学部長の責任の下で改善を執行する体制を確立している。	
年度目標	現状を維持	
年度報告	現状を維持した。	
達成度	A	
改善課題		
根拠資料	①第15会学科長等連絡会議、②福山大学工学部自己点検評価運営委員会細則	
次年度の課題と改善の方策		

2020年度 工学部

中点検項目 6-2. 内部質保証のための自己点検・評価		
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。	
現状説明	工学部自己点検評価委員会での評価結果を、学部教授会で諮り教職員間で共有した。	
年度目標	現状を維持	
年度報告	現状を維持した。	
達成度	A	
改善課題		
根拠資料	①第1回工学部教授会、②工学部自己点検評価委員会議事録	
次年度の課題と改善の方策		
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。	
現状説明	入試データを過去4年集め、グラフ化し、傾向を解析し、学科長等連絡会議で共有した。予備校が作成しているデータを教授会で報告し、今後の対策を促した。	
年度目標	入試データ以外の、成績分布など比較的取り組みやすいデータ分析から実施する。	
年度報告	それぞれの学科で授業評価SDが行われていて、IRも実施されている。過去の入試データの傾向分析を昨年度から継続して行った。	
達成度	A	
改善課題		

根拠資料	①それぞれの学科の授業評価SD報告書、②工学部自己点検評価委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
2020年度	工学部
中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	各学科の自己点検評価を学部自己点検評価委員会で総括する際に、システムの機能性も検証している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①第1回工学部教授会、②第16回工学部教授会
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	福山大学学術倫理審査委員会があり、工学部では学部長の下、コンプライアンス教育研修会を厳格に行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①第3回研究活動不正防止対策推進会議資料
次年度の課題と改善の方策	

2020年度 工学部

基準7. 福山大学ブランディング戦略

領域：「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価（本学独自基準）

2020年度	工学部
中長期計画	福山大学がブランディング戦略として策定した、「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる「未来創造人」を育成する」という方針と、それを研究において推進する、全学研究プロジェクト「瀬戸内の里山・里海学」における、「瀬戸内」という素材を活かし、「工学」の定義である「人に役立つ事物や環境を構築する学問」を具現化するための研究・教育プロジェクトを有機的に興し、推進し、成果を明らかにすることで、福山大学工学部の使命(個性)を明確にする。

2020年度 工学部

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略(ver. 2018)の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	教職員に対しては、安全安心防災教育研究センターや大学院FDなどを通じて、周知している。学生に対しては、新入生が受講するみらい工学プロジェクトの最初の回で説明を行っている。また、学生も交えた本学ブランディング戦略に関する工学部の関わる研究も行つ
年度目標	学生に対する周知の努力をする。
年度報告	全学教授会で学長から全教員に対して説明が行われた。大学ホームページで全学生・教職員に対する周知が行われている。新型コロナウィルス禍により工学部みらい工学プロジェクトは無くなったが、ひとまち暮らしprojectは実施され、ここでも周知が行われた。各学科から行われた学長室ブログ投稿などでも周知の努力を行っている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ(例えば、びんご建築女子2020.10.27、2020.11.19等、EVレース2021.03.08等、ETロボコン2020.09.18)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との区別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取組んでいますか。
現状説明	備後圏域の特徴を再認識できるビジョンを作り、そこから、研究テーマ、地域連携テーマを設定する努力をしている。その結果、7-2-①で挙げたプロジェクトが実行されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。

達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ2021.03.01 【スマートシステム学科】第1回広島テックプラングランプリで広島銀行賞を受賞！他
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学プランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取組んでいますか。
現状説明	福山市、福山商工会議所、広島県東部産業支援課、ひろしま産業振興機構、備後地域地場産業振興センター、地域企業団体、優良NPO法人等と共同研究、協働活動契約を結び事業を展開している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学部教授会資料(第2回、第3回、第4回、第5回、第6回、第7回、第9回)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 福山大学プランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	福山圏域住民や企業に対する教育研修事業である福山市ものづくり大学に積極的に参画する等地域への影響力と知名度を高めており、当該主催機関である福山市による事業評価を参考に効果の検証を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①各事業に対する実施依頼状（第5回工学部教授会議事録） ②卒業生アンケート(https://www.fukuyama-u.ac.jp/wp-content/uploads/2020/08/%E4%BB%A4%E5%92%8C%E5%85%83%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E7%A6%8F%E5%B1%B1%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E3%81%A7%E3%81%AE%E5%AD%A6%E4%BF%AE%E3%82%92%E6%8C%AF%E3%82%8A%E8%BF%94%E3%82%8B%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%83%88%E5%AE%9F%E6%96%BD%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%8B.pdf) ③企業アンケート
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 福山大学プランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	福の耳プロジェクト、MBD研修等、OJTの要素を持つインターンシップ型の活動を実施し、学生の就業観を高める取組みを推進している。その成果は、卒業、修了生の就職先で検証して
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①各事業に対する実施依頼状、②卒業生アンケート、③企業アンケート、就職委員会資料（備後地方への就職者の数や就職先など）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 福山大学プランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	福山市ものづくり大学、MBD研修、いぐさプロジェクト、製材工場の環境改善研究等、工学部が管轄できる備後圏域の地域性を活かした各種活動を展開している。進行中の研究テーマ群であるため成果の検証法について検討中である。
年度目標	研究成果の検証法を検討する。
年度報告	①工学部自己点検評価委員会議事録、協働事業計画の申請書、共同研究の件数、備後地域企業への就職者数などで検証することについて、検討を行った。成果発表などの公開の状況で検証を行った。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①工学部自己点検評価委員会議事録 ②工学部紀要 ③学長室ブログ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 福山大学プランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	福山市、地域のNPO法人等が実施する各種イベントに於いて、市民とのふれあい、市民への教授など学生のホスピタリティの醸成に寄与する活動に積極的に参加する機会を設けている。その成果は、直接的に調査できていないが、学生の参加率に反映している。
年度目標	学生に、各種イベント参加の機会を与えることを継続するとともに、参加した学生の所見を得る調査を実施する。
年度報告	学生が参加したプランディング戦略に関わる事業について、学生の感想等を収集し、その良し悪しによって検証を試みた。また、学科行事や学会のオンライン会議の運営に関与した学生数などにより、全人教育の成果を検証できることを確認した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ(2021.02.24、2021.01.25、2020.12.25、2020.11.19等) ②第15回学科長等連絡会議
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑧ 福山プランディング戦略は、これからも進化させて、さらに発展させることが必要です。プランディング戦略のブラッシュアップにどのように取組んでいますか。
現状説明	安全安心教育研究センターにおけるプランディング戦略の議論に積極的にかかわっている。工学部の持つ知識や技術を使って、里山・里海の課題解決のために、7-2-①で述べるプロジェクトなどで関わっている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ(2020.09.30、2021.03.25)、②安全安心防災教育研究センターH31年度活動報告書
次年度の課題と改善の方策	

2020年度 工学部

中点検項目	7-2. 福山大学プランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取組んでいますか。
現状説明	工学部教員が関わる研究テーマとして、里海の藻場探査プロジェクト、瀬戸内里海の次世代養殖システム、「地域遺産」の理念構築とその保全・継承に関する研究、里山の災害対策のためのIoTシステムに関する研究、住みよいまちづくりを支援するプライベート音空間を使用した革新的介護システムの構築、が掲げられている。
年度目標	計画に沿って研究を推進する。
年度報告	コロナ渦で一部進行が遅延しているが、ほぼ計画通りに研究が推進されている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ、②工学部紀要Vol.44
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学プランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	文部科学省プランディング補助金の採択があり、一部は賄われるが、それ以外は外部資金獲得のための継続的な努力をする。
年度目標	新規外部資金獲得の努力を継続する。
年度報告	いくつかの研究テーマに関し、外部資金を獲得することができた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度サタケ研究助成金契約書②科研費③伍賀先生の広島テックプランプリ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学プランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	福山大学研究成果発表会、学会発表、報道発表で行っている。
年度目標	現状を維持

年度報告	現状を維持
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ、②工学部紀要Vol. 44、③福山大学研究成果報告書、
次年度の課題と改善の方策	